

1 日時 令和2年8月28日(金) 13:30~16:10

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順、敬称略)14人出席/14人全体(うち3人リモート参加)

青山委員、内野委員、浦松委員、江川委員、落合委員、狩野委員、小塩委員、高山委員、田代委員、田中委員、松浦委員、宮下委員、森田委員、渡邊委員

(2) 上下水道局職員

森下公営企業管理者、丸岡上下水道局長、服部次長兼水道部長、石垣下水道部長、杉本水道技術担当部長、一柳経営企画課長、水島水道総務課課長補佐、杉山お客様サービス課長、星野参与兼水道基盤整備課長、望月参与兼水道管路課長、山下水道施設課長、浅井水質管理課長、見城水道事務所長、川越清水水道施設担当課長、宮崎葵北水道施設担当課長、稲葉水道維持担当課長、榊原下水道総務課長、石原下水道計画課長、森田参与兼下水道建設課長、大石下水道維持課長、大石下水道施設課長、佐野下水道事務所長、戸塚浄化センター担当課長

(3) 協議会事務局職員

一柳経営企画課長、石原下水道計画課長、外10名

4 傍聴者0人(報道0社)

5 内容

(1) 開会

(2) 議事

① 令和元年度決算見込みの報告

資料1 令和元年度決算見込み・主な実施事業

○ 質疑無し

② 改善に向けた取組

(a) 浸水対策

資料2-1 改善状況報告調書(浸水対策)

(b) 濁水対策

資料2-2 改善状況報告調書(濁水対策)

○ 質疑無し

③ 外部評価方法の決定

資料3 第4次中期経営計画の評価方法について（案）

資料4 新たな取組み等を実施したものの外部評価スケジュール

資料5 令和2年度 第4次中期経営計画 外部評価（令和元年度）対象（案）

[田代委員]

資料5の主要な事務事業について、定義づけはどのようになっているか。何をもって主要な事務事業としているのか。コンセンサスは得られているのか。

[事務局]

第4次静岡市中期経営計画を策定した際に、「主要」を「主に進行管理を行う事業」と定義し、事務事業を決定している。（第4次静岡市中期経営計画：P2）

④ 令和元年度施策等の進行管理 事務事業の自己評価・外部意見聴取

資料6 第4次中期経営計画 事務事業評価シート記載例

資料7 第4次静岡市上下水道事業中期経営計画 事務事業評価進行管理シート

●政策1 施策（1）重要な管・施設の地震対策（戦略的に重要なもの）

[狩野委員]

P4の「②下水道管の耐震化」の中で、令和元年度の活動指標が4.0kmから6.0kmに変更となった理由が「国からの財政支援」とあるが、この財政支援はあらかじめ想定することができないものか。この財政支援とは、どういった項目で行われたものか。

また、6.0kmにした際に、事業の優先順位をどのように判断したかお教えいただきたい。

[下水道維持課長]

財政支援について、国が年度の途中で行う補正予算の対象に耐震化があった。国の補正予算はいつあるかわからないものであるため、当初は年度計画策定時点の数値であったが、補正予算が生じ、本事業への充当が可能であったため、追加で国からの支援を受けたことによるものである。

その際に優先的に実施した事業については、次年度実施しようとしていた箇所を前倒して実施した。

[森田委員]

資料6の事務事業評価シートの記載例にて、シートの作りを説明いただいたが、従前の第3次中期経営計画では単年度の評価と累積の評価が混在していた。その点については、以前委員の方からも指摘があった。

今年度の第4次中期経営計画からは整理を行っていただいていると思うが、記載例では単年度と目標をどこまで達成しているかという累積について、どのように分けて示しているのか。記載例でみると、活動指標は単年度の値、成果指標は累積の値のように見受けられるが、念のため単年度と累積がどのように示されているかをお教えいただきたい。

[経営企画課長]

第3次中期経営計画では、単年度と累積の指標が混在しており、分かりにくいという指摘をいただいていた。それを受けて、第4次中期経営計画では、活動指標はその年度の仕事量を示そうということで、単年度の指標としている。そのため、原則としてアウトプットということで1年間の仕事量を記載している。



成果指標については、この仕事量をやったというアウトプットに対して、市民生活への影響というものを占めすことに繋がるアウトカムとなる指標を設定している。今回の資料6の例については、活動指標（アウトプット）を実施した結果が「基幹管路の耐震管率」という成果指標（アウトカム）に繋がっていくため、累積表示になっている。ただ、事務事業によっては、単年度と累積が混在しているものもある。

第4次中期経営計画の事務事業評価については、単年度の活動を基に毎年度評価をしていき、施策・政策については、累計で評価していくという考え方で実施していく。

[高山委員]

昨年度自宅の付近で実施された水道管の工事について、何回も掘り起こして工事をしていて、400mの工事にかなりの時間を要していた。見ていて、やり方が複雑だと感じた。予算の上で距離を決めているのであればしょうがないと思うが、作業方法を見直していけば、もっと長い距離ができるのではないかと感じた。

[参与兼水道基盤整備課長]

水道管の耐震化の延長については、道路工事の進捗や道路管理者との調整によって、延長を決めた中で予算を計画的に確保して事業を進めている。

今回のお話あった箇所は国道一号線の400～500mの工事であり、かなりの時間を要した。できる限り早期の工事完了に向けて、工程や施工の工夫をしていきたい。

●政策1 施策（2）浸水対策（戦略的に重要なもの、自己評価が「a」未満のもの）

○ 質疑無し

●政策2 施策（1）管・施設の老朽化対策（戦略的に重要なもの）

○ 質疑無し

●政策3 施策（2）温暖化対策（新たな取組み等を実施したもの）

[松浦委員]

P38「①自然エネルギーの活用」について、活動指標の実績値が「20kW [小水力]」となっている。自己評価が「a」以外となった理由等では「発電電力量の実績」について、「11.31kW」と記載されている。実績値が「11.31kW」ではなく、「20kW」と記載されているのはなぜか。

[水道施設課長]

20kWの発電ができない理由として、中部電力の方で、周囲の配電状況が悪いため、発電の制限を受けている。発電量の増加に向けて、中部電力や設置業者を交えて、協議をしている。

20kWとして表示しているのは、令和元年度の実績として、発電の能力が最大20kWの小水力発電設備を設置したということを示している。

[松浦委員]

配電設備の方が脆弱等といったことが理由なのかと思うが、この外部的な要因が改善されない限りは数字的にも改善される見込みがないということになる。そうすると、全体の計画として下方修正した方が良いのではないか。

[水道施設課長]

周囲の状況を見ながら改善される余地はあるということで、状況の改善に向けて協議を進めている。その結果を受けて、下方修正の必要があれば、協議会に諮っていきたいと考えている。

●政策5 施策(2) 職員の技術習得(評価対象としたいもの)

[狩野委員]

「職員の技術習得」に記載されている職員の定義は、「正規職員」と把握してよいか。

[下水道総務課長]

「正規職員」である。

[狩野委員]

上下水道局において、指定管理者等によって正規職員以外の方が事業に従事しているが、そういう方々への研修はどのように考えているか。

[下水道総務課長]

施設の管理を委託しているが、委託の内容によって業務実施が可能なものを配置するように明確に仕様書等によって指示している。受託者側で研修はそれぞれ行うものと承知している。

[狩野委員]

受託者の考え方によっては、研修が実施されたりされなかったりするということか。

[下水道総務課長]

指定管理にしても業務委託にしても、業務についての仕様書を示している。それにより受託者側は業務を受けることになる。当然ながらその業務内容はできるものを配置するとしている。受託者側で更に知識・技術を向上させるという意図があれば、そういった技術指導を行うものと思われる。

[浦松委員]

P63「①各種研修の充実」の成果指標にて、「水道技術に関する資格取得度」とあるが、こちらのR1実績「1.4件/人」というものは累積か。それとも各年度「1.4件/人」の資格取得が行われているということか。

[水道総務課課長補佐]

総人数に対する資格を持っている数としているため、累積である。

●政策5 施策(3) 財政の健全化(戦略的に重要なもの)

○ 質疑無し

⑤ 雨水総合排水計画の更新【下水道】

資料8 静岡市雨水総合排水計画の更新【下水道】

[高山委員]

最終的には下水道を介して放流することとなるが、道路の排水溝が川よりも低かったりする事例がある。そういった道路の排水溝の管理は道路部局が行っている。先程色々な部局と協力しながら浸水対策を進めていくとご説明いただいたが、街中で発生する浸水の多くは、排水溝にうまく流れないということが多い。道路部局と下水道による一貫した浸水対策を実施してほしい。

[下水道計画課長]

一般的に道路側溝は道路に流れた水を排水するという役割があり、それを下水道に入れて、放流するという流れになっている。道路部局とも連携をとって、浸水対策を進めていきたい。



[松浦委員]

市内には合流式の下水道があり、東京オリンピックのトライアスロンの会場で大腸菌が多く出て、その原因が合流式ではないかといわれている。静岡市清水区の巴川でも、巴川を活用していこうという有志がいるが、雨が降ると合流式の場合、オーバーフローした下水道が河川に流れ出ることが懸念される。市内の合流式下水道で何らかの対策がされているのかお教えいただきたい。

[下水道計画課長]

合流式の下水道では、合流改善事業というものがあり、本市では事業は完了している。

事業の内容としては、昔に比べて放流の回数を減らすことや、ファーストフラッシュ（雨が降ってすぐに流れる一番汚い部分）を放流しないような対策を実施している。

悪い水質等があれば、引き続き検討を実施していく。

[田代委員]

資料8「3. 現在の状況と計画の更新 ③段階的整備計画」の「現在の状況」に、「限られた財源の中で既存ストックを活用した…」と記載されているが、「既存ストック」とは具体的に何をイメージしているのか。

また、「更新（案）」には、特に財源についての記載は見受けられないが、その点はどのようになっているか。

[下水道計画課長]

「既存ストックを活用」とは、今までの水路に降雨シミュレーションをして、浸水が起きない水路については現状の資産を活かしていくという考え方である。

[田代委員]

「限られた財源の中で既存ストック」とお書きになっているので、財源の中で何かをストックとして位置付けているわけではなく、今ある設備にシミュレーションをかけて、まだ活用できるようであればそのまま活用するという理解でよいか。

[下水道計画課長]

その通りである。財源が限られているので、今あるものを活かしていくことを検討するという意味である。誤解が生じないように表現を修正する。

また、上下水道局では12年間の進むべき方向性として経営戦略を策定している。令和12年度以降についても新たに経営戦略を策定する際には、今回の雨水総合排水計画の更新結果を受けて事業の優先順位を考えていき、それを踏まえた財源を検討していく

[田代委員]

先程お伺いしている中で、「シミュレーション」という言葉が出てきたが、誰が行っているのか。上下水道局で実施しているのか。どこか然るべきところに依頼をしているのか。

[下水道計画課長]

コンサルティング会社に業務を委託して実施している。

[内野委員]

今いただいた意見や意見記入用紙にて挙げられた意見を参考にして、パブリックコメントに反映していただきたい。

[下水道計画課長]

承知した。

⑥ 第4次中期経営計画・経営戦略の見直し（谷津山配水池、中町浄水場・配水池）

資料9 第4次中期経営計画・経営戦略の見直し（谷津山配水池、中町浄水場・配水池）

[松浦委員]

資料には「②課題 4 コロナに伴い料金改定を4か月延期したことへの対応」と記載されている一方で、「③今後の方向性（案）」には「第4次中期経営計画では、これに代わる耐震化事業を追加し、目標を維持する」と記載されている。

減収を補うことへの対応として「これに代わる耐震化事業を追加」したら表現の整合が取れなくなるのではないか。

[経営企画課長]

投資をある程度抑えつつ、耐震化を進めていけるという工夫を現時点で検討を進めている。今年度中に案を作成し、協議会にお示しをしていきたいと考えている。

[小塩委員]

谷津山配水池について、廃止後はどのようにするのか。また他の事業で活用するために最低限の耐震対策などは実施するのか。

[経営企画課長]

谷津山配水池は現在も活動していて、すぐに廃止はせず、近い将来廃止するように進めていく予定である。ただし、耐震化事業はもう実施はせず、廃止後は撤去等の検討を行っていくこととなる。

同様に中町浄水場・配水池についてもどのように利用していくのかは今後の検討の課題となる。ただし、市民生活に危険な影響を及ぼすことがないように検討を進めていきたい。

(4) 閉会

〈連絡事項（事務局）〉

- ・資料10 静岡市上下水道事業経営協議会「事務事業外部評価」意見記入用紙
- ・令和2年度 第2回静岡市上下水道事業経営協議会 ご意見記入用紙

事務事業の外部評価を令和2年9月11日（金）までに提出していただきたい。また、その他のご質問やご意見等があれば、ご意見記入用紙にてお送りいただきたい。メールアドレスをいただいている方にはデータも送信するので、そちらで提出いただいても構わない。

次回の第3回上下水道事業経営協議会は令和2年10月16日（金）に予定している。案内は後日通知する。

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

(署名) 森田佳宏